

# デュオスマイル Duo Smile

デュオドーパ®をお使いのみなさまへの情報誌

Vol.  
2

〔総監修〕  
独立行政法人 国立病院機構  
仙台西多賀病院 院長  
武田 篤先生



abbvie

# デュオドーパ®療法における チューブトラブルのサインと気をつけるポイント

みなさんがデュオドーパ®療法にチャレンジするにあたり、様々な葛藤があったことと思います。特に胃に穴をあけることに対しては、不安をもたれた方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。

デュオドーパ®療法では、胃に作った小さな穴(「胃ろう」)から専用のチューブを通し、小腸(空腸)にチューブの先端を留置してお薬を持続的に投与しますが、このような治療法は他になく、消化器専門の私にとっても新たな挑戦でした。私が勤める順天堂大学医学部附属順天堂医院では、2018年10月現在約40名の患者さんがデュオドーパ®の治療を開始されましたが、長年続けてきた経口薬治療から新たな治療法に踏み出される皆さんに「元気で笑顔を届けるための胃ろうを造る」との思いを込め、この治療に参加させていただいています。

また、デュオドーパ®療法はチューブの取り扱いも避けては通れません。

体外(お腹の外から確認できる場所)のチューブを正しく保つことに加え、体内(お腹の内側の目に見えない場所)で起きているチューブトラブルのサインに早期に気づくことがとても大切です。

患者さんお一人おひとりが、またご家族・介護に携わる方々が『普段の状態を知っておくこと』や『日々生活の中でいつもと何かが違うという気づき』が、治療を続けていくうえで重要なポイントです。

みなさんに毎日のスマイル(笑顔)をお届けできるよう、各ご施設の消化器の先生方も治療を継続的にサポートしていきますので、おかけの病院で主治医や消化器の先生方とお話しされる際に本誌をご活用いただければ幸いです。

順天堂大学医学部附属順天堂医院  
消化器・低侵襲外科 助教  
(所属・役職は2018年10月現在)

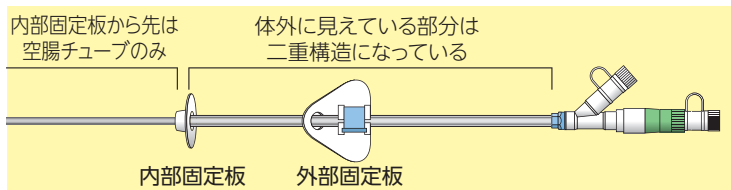
夕部 由規謙 先生



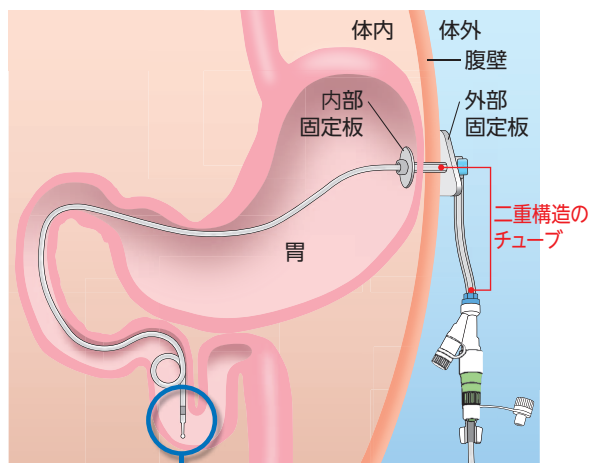
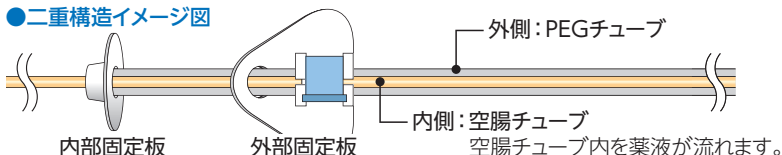
## チューブの構造と正しい位置について

チューブは二重構造になっています。

外側の「PEGチューブ(胃ろうチューブ)」は胃に通じるトンネルの役目をはたし、内側を通る細く長い「空腸チューブ」はお薬の吸収部位である小腸まで伸びていて、チューブの先端は丸いカーブを描いています。「空腸チューブ」の先端には小さな穴が開いていて、そこからデュオドーパ®が持続的に投与されています。



### ●二重構造イメージ図



小腸(空腸)にあるチューブの先端からデュオドーパ®を持続的に投与しています。

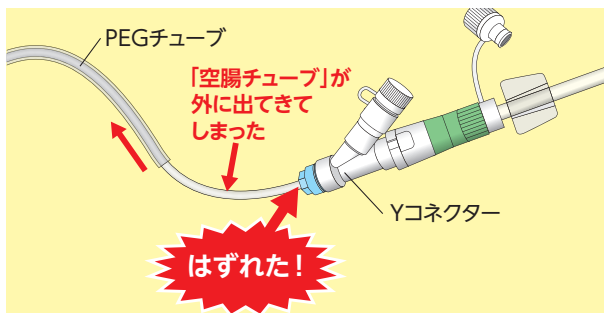
## チューブが外れて(抜けて)しまった場合

「空腸チューブ」が長く外側に出てしまった場合、小腸の正しい位置から移動しお薬が効きにくくなっている可能性があります。

チューブの扱いにはくれぐれも気をつけて、もしもの時には慌てずに対応しましょう。

### ▶ YコネクターからPEGチューブが外れてしまった場合

チューブを何かに引っ掛けたりして強い力がかかると、Yコネクターの根本から「PEGチューブ」が外れ、内側にある細い「空腸チューブ」が外に出てきてしまうことがあります。



・右の図のように「空腸チューブ」が出てしまった場合、一時的な処置として「PEGチューブ」をテープなどでYコネクターに固定し抜けないようにしてください。

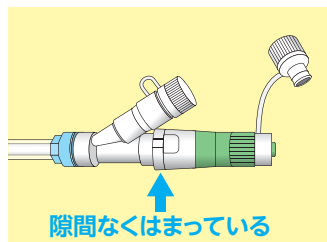
・Yコネクターの下の青色の部品が長期使用により緩むことで外れやすくなる場合があります。

Yコネクターを握って回すことで締め直すことができます。

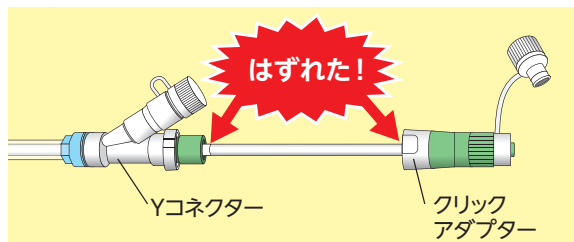
訪問看護師さんやご家族の方などに適宜確認していただき、緩みがある場合は締めなおしてもらってください。

### ▶ Yコネクターからクリックアダプターが外れてしまった場合

● 正しく接続されている状態



● 空腸チューブが出てきてしまった状態



右上の図のように、Yコネクターとクリックアダプターが外れ、「空腸チューブ」が外に出てしまった場合、一時的な処置としてYコネクターとクリックアダプターを近づけて押し込めば接続できます。

Yコネクターとクリックアダプターのつなぎ目は触らないようにしましょう。

・処置がわからない場合や不安がありましたら、まずはデュオドーパ® コールセンターにお電話ください。

・処置が終わりましたら、かかりつけの病院に相談してください。

## 『コウアツアラームヘイソクアリ』が表示され、アラームが鳴りやまない場合

チューブが捻じれたり折れたりしてお薬が流れにくくなると、アラーム音でお知らせします。

ポンプの画面に『コウアツアラームヘイソクアリ』と表示された場合、まずは体外でチューブの状態(赤キャップ・クランプ・折れ・捻じれなど)を確認し、折れや捻じれがあれば直してください。解消されるとアラームも止まり投与が継続されます。

それでもアラームが鳴りやまない場合、お腹の中でチューブの折れや捻じれが起き、お薬が流れにくくなっている可能性があります。



チューブの状態を確認するお手伝いをさせていただきますので、まずはデュオドーパ® コールセンターにお電話ください。

## 体内でのチューブトラブルのサイン(症状など)

- ✓ 腹痛が続いている
- ✓ 吐き気が続いている
- ✓ 急に薬の効果が減弱した

お腹の中にチューブが入っているため、まれに胃石(チューブの先端に食べたものがからまる)や、腸閉塞、潰瘍、出血などがおこる可能性があります。



- ・腹痛、吐き気、嘔吐(おうと)などの症状があらわれたり、チューブがお腹の中に引っ張られるような感覚がありましたら、デュオドーパ®の治療を中止してかかりつけの病院に相談してください。
- ・「PEGチューブ」の中に「空腸チューブ」が通っているか確認してください。
- ・急に効果が減弱したと感じた場合には、かかりつけの病院に相談してください。

## お鍋の美味しい季節がやってきました



寄せ鍋、チゲ鍋、しゃぶしゃぶ、ちゃんこ鍋など、お鍋の季節がやってきました。

お鍋の具材に使われるエノキ茸などのきのこ類は食物繊維の豊富な食物ですが、そのままですと消化されずチューブの先端に絡まり、チューブの先が塞がれたり、腸の閉塞をひきおこす場合があります。

普段の食事でも食物繊維の豊富な食物(きのこ類やアスパラガス、山菜など)を食べる場合は、細かく刻むなど調理の工夫をして、よく噛んで飲み込んでください。

また、ゆっくりと適量をとるようにし、早食いや食べ過ぎは避けましょう。

これらに気をつけて、秋の味覚を楽しんでくださいね。

### 調理の工夫



### 食事をするとき

よく噛んで飲み込む

早食い

食べ過ぎ

もしも、腹痛、吐き気があったり、チューブが引っ張られるような感覚がありましたら、ただちに使用を中止して医師に相談してください。

デュオドーパ®による治療を受けられる患者さんのための問い合わせ窓口

デュオドーパ®コールセンター

フリーダイヤル

0120-063-789

受付時間：24時間365日〈通話料無料〉

わからないことがあればいつでもお電話ください。お待ちしております。

患者さんや介護者の方々からのお電話をお受けしています。

